

マイクテクニック公開セミナー2011

昨年多くの方々からのご意見を基に本年のYBBJCについて考えてみました。
数多くのアマチュア演奏家が抱くマイク使用に関する謎や拘りの数々をご紹介します。
本番と同様のステージを利用して具体的な問題部分を指摘します。

基本自分で選んだ物について可否
与えられた物の理由と考え方

目的とする楽器の特性に合ったマイクの選定とは

・キューシートに必要となる情報があればその内容で限定します。

リハーサルが無いコンサートで考えるトラブルや意識の相違

- ・Bassの音質と音量を各部所どの程度モニターに返さなくてはならないかをここ数年のデータから再設定を試みます。
- ・過去15年間でBassの大きなトラブルは1回のみです。
- ・演奏中にラインのケーブルのNGが発生し、全くモニターと会場に音が供給されなくなりました。
- ・この時の対応は録音(CD化)の為に全Bandにご用意してあるW.Bass用専用マイクに差し替えて対応致しました。
- ・レベルや音質の違いは少なからず発生しますがスタッフが奏者の前を走り回ることなく対応できたのが幸いでした。
- ・しかし、KeyboardやBassのライン系統のトラブルはBandの演奏結果に直接結びつくので十分スペアのご用意や事前でのトラブルシューティングは必要となります。
- ・参考としてですが普段のリハーサル中に誰かがKeyboardやBassの音を無理やり止めてBandがドライブできるか試みて下さい。

①input

②stand

①インプット

●コンサートステージで多いトラブル

1. シールド系のNG

2. レベルの不適正状態、特にエフェクターを使用した場合にレベル調整がされていない。

・これはHPにも書きましたがかなり広範囲で障害が生じます。

●普段練習で使用しているマイクとスタンドを本番ステージで使いたい。

・マイクによっては可能です。ただオペレーターからは音質の確認がすぐに出来ないのでは結果的には良い成果は与えられないです。

・他の人と同じ動きが出来なくなる事を予想してリハーサルの早目の時間には用意してスタッフからの指示を待ってください。

またマイクのホルダーサイズが合わない等があります。

②マイクスタンド

※会場にて使用しているマイクスタンドは目的とする楽器の特性に合わせたサイズを使用しています。

・しかも素早いステージングに対応できるように楽器を持っていない側の片手1本で演奏する事が出来るように海外より特注品をご用意しております。

※ホーンセクションのマイクの使い方について、当日、実演します。